

Title	創刊の辞
Sub Title	
Author	松田, 隆美(Matsuda, Takami)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2014
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC Review Keio University). Vol.1, No.1 (2014. 3) ,p.3- 3
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000001-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

創刊の辞

松田隆美（慶應義塾大学 DMC 研究センター所長 文学部教授）

この度、慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター（DMC 研究センター）の紀要が創刊されることとなりました。『DMC 紀要』（DMC Review）は広くデジタル・コンテンツにかかわる内容を対象とする新しい学術誌で、さまざまな形態での寄稿が可能です。論文、研究ノート、資料紹介など研究誌が通常対象とするジャンルに加えて、作品や展示・実験報告などを掲載することもありますし、さらに投稿者がジャンル名称を指定して投稿することもできます。そうした多様な形式に対応し、動画像の活用や外部リンクなどもできるように、『DMC 紀要』はウェブ版のみで定期的に刊行されます。したがって投稿も随時受け付けています。DMC が進めている MoSaIC (Museum of Shared and Interactive Cataloguing) プロジェクトの最新の成果も、この紀要で発表されることになるでしょう。

文化財の研究や展示にアナログとデジタル双方の手法を用いることは日常的なこととなりましたが、両者が相互補完的に機能して研究や教育の質を高めているケースは、まだ少ないように思われます。その理由はデジタル環境を提供する側とそれを特定のコンテンツを対象として実際に活用する側とのあいだで、十分な対話がなされておらず、インタラクティブな関係が生まれていないことにありそうです。コンテンツを持っている人文科学や社会科学の研究者がどのような環境を求めているのか、一方で、技術的にどのようなデジタル環境が構築可能なのか、相互理解を深める必要があります。理系と文系の研究者は、しばしば思考パターンも使っている言語もこととなりますが、その違いを知ることが相互にとって新たな発想を可能にすることは、DMC 研究センターの活動が日々示しています。『DMC 紀要』は、そうした対話の空間を提供する DMC のもう一つの研究環境です。デジタル・コンテンツとメディアに関して、多くの方の興味をひくような内容を提供してゆくことを目的としています。